

専門分科会のまとめ

- 1 専門分科会のまとめ 1ページ

- 2 PB配置図 別紙

※中間報告からの加筆部分が赤字

専門分科会のまとめ

1 方向性の整理

(1) 隻数について

➤最大値：~~199~~200 隻程度（これを受入可能キャパシティーとする）

~~➤収支予測における利用隻数のベース（損益分岐点）~~

~~※陸上・水上が同料金の場合：約 162 隻~~

~~※陸上・水上が別料金の場合：約 168 隻~~

➤利用率としては、受入可能キャパシティーの 80%程度を見込むものとする。

(2) 利用料金、収益等について

➤利用料金はあくまでシミュレーション上の設定であり、詳細な料金設定は管理運営者が決めるものである。

➤周辺施設の利用料金を考慮し、均衡を図ることとする。

~~※陸上と水上の料金を同じにしてもいいのではないか。~~

(3) 配置に関して

➤現時点では、8号・9号野積場及び9号野積場の北西側水面を係留施設のゾーンとして検討。

➤水上保管は静穏度確保領域を確保できるエリアとして、場所、隻数について検討。

➤大きな船は可能な限り水上保管となるように配置。スペースの有効活用のため、小さな船も水上保管としている。

➤陸上保管については、水上保管の検討結果により柔軟に対応する方向としている。

➤利便性を考慮すると、防砂堤を歩かないで済むように、船舶を北東（南西）方向に配置することが望ましい。

~~※水上保管については、浮き桟橋の配置（船の配置）の別パターンも検討する。（別紙）~~

➤船を修理するための整備工場（ドック）は、漁協の施設を借りることを想定する。

➤斜路式について、維持管理費用や利用予測結果を考慮すると、1機が望ましい。

(4) 管理運営方法について

➤管理運営方法として、指定管理者制度による管理運営が一般的である。

2 各委員からの意見を踏まえた検討課題

(1) 隻数や利用料金、収益等に関する検討課題

- ・収支が均衡する利用率は約7割程度が多いので、詳細設計時には、全体レイアウトの隻数等に留意すること。

(2) 配置に関する検討課題

- ・通常時の季節風、台風時（強風時）の対応について詳細設計時に詳細な検討が必要。
- ・今回は意向調査の回答における船長を使用して検討したが、詳細設計時には、船の実長について詳細に調査し、船の配置レイアウトを再検討する必要。
- ~~・斜路式について、どの程度整備するのか検討が必要。~~
- ~~・船を修理するための整備工場（ドック）の設置について検討が必要。~~

(3) 管理運営方法に関する検討課題

- ・地元マリーナのヒアリングを行い、その上でサービス内容についての検討を行う。
- ・係留施設への遊漁船に関する取扱いについて検討が必要。
- ・24時間管理は現時点で想定していないが、水上保管については、時間外でも自由に利用できるか検討する。
- ・駐車場料金については、周辺機能（施設）との兼ね合いもあるので、進捗状況を見ながら検討を進める。
- ・管理運営者を決定する際、芦屋港周辺の活性化に関する提案を募るのが良い。

